

現在50歳の私は9年前41歳の時に、乳がんを宣告され手術を受けました。

私が初めてしこりに気づいたのは、その年の春で、さりげなく触った乳房の乳輪の下に、しこりを感じました。

しかしその時は、乳がんがそんな所にできる訳がないと勝手に思い込み、気にもしませんでした。夏になり、まだしこりがあることに不安を感じ、あわてて病院に行きました。そして不安は的中し検査の結果、乳がんと言われたのです。

がん＝死。その時はそれしか頭に浮かびませんでした。とにかく、「すぐに手術してほしい・・・、悪い所を取ってほしい・・・」頭が真っ白でした・・・そう思ったことは覚えています。また死の恐怖を除くためには、どんなことでもするという気持ちになり、万が一のことを考えて、迷わず全摘を選びました。しかし、その選択が後で後悔することになるうとは・・・

3年、5年、7年とハードルを越えることで、私の死への不安も少しずつ和らいでいきました。もちろん、全く問題なく9年が過ぎたのではありません。再発の疑いもあり、検査を繰り返したこともあります。その間、何回も涙しましたが、おかげさまで今日まで元気に過ごしています。

人間ってどうしてこう勝手な生き物なのだろう・・・いや、そんなことを考えるのは私だけなのだろうか・・・元気に過ごせていれば、また新しい悩みが生まれてきます。乳房がないことです。助かりたい一心で、大事を取り迷わず全摘を選んだ自分だったのに、乳房をすべて取ったことを後悔するようになりました。

そして、ついに昨年、再建をしました。まだ乳首は作っていませんが、胸にふくらみがあるだけで、ずいぶん気持ちが楽になりました。

これからも色々なことがあると思います。落ち込むことも多々でてくるでしょう。その度に泣いたり、ほっとしたりしながら、頑張って生きていこうと思っています。